

# 平成27年度 第8回宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい研究部会研究大会 レポート

開催日 平成27年7月30日(木) 会場 みやざき中央支援学校

研究大会の大会テーマ「特別支援教育における専門的指導力の向上を目指して」を基盤として、本年度の大会テーマを掲げて開催されました。

テーマ

「子ども一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育や必要な支援の更なる充実を図るために」  
～ 子どもたちが自分の気持ちを上手に表現できるように ～

**【講座1】** アセスメントを取り入れて、教育的ニーズを把握しましょう  
～ WISC-III 等から推察できる発達のアンバランスさと支援方法～

**【講師】** 県教育研修センター 指導主事 落合 雅暢 氏

## 1 講座の内容

### ① アセスメントについて

アセスメントとは「個人の状態像を理解し、必要な支援を考えた  
り、将来の行動を予測したり、支援の成果を調べること」

アセスメントの際の留意点は、「自分の児童生徒観を把握すること」「視点の誤りをチェックすること」「指導の見通しを整理すること」「保護者と本人の意見を尊重すること」であり、根本的な課題を捉えることが大切である。

アセスメントをする観察者が気を付ける点は、「観察の目的を明確化すること」「事実をそのまま受け入れること」「複数の情報を取り入れること」「状況を客観的に記録すること」である。

アセスメントを実施する際は、「どういう検査を行うことが子供にとって適切であるか」「検査場面では、子どもが本来持っている力を発揮できるような状況を設定すること」「検査結果と日頃の様子を関連させて総合的な解釈を行うこと」「子供の特性に合わせた手立てを提案すること」に配慮することが必要である。

専門機関にアセスメントを依頼する際は、主訴・家族構成・成育歴・相談歴・教育歴・現在の様子を明確にして伝える。アセスメントは、「学力面」「行動・社会性」「感覚・運動能力」「心理面」の4つの領域から行う。例えば「読み・書き」のアセスメントとしては、「かな10単語聴写検査」(吹田市教育センター)がある。

### ② WISC-III についての解説

検査時の観察では、「反応の早さ」「集中度」「姿勢」「筆圧」「独り言」「検査具の取り扱い」等を見る。K-ABCとWISCは、ほぼ相関している。

### ③ 最後に

アセスメントが大事である。継続的にアセスメントを行い、子どもたちを客観的に捉え、適切な指導に結び付けてほしい。challenging behaviorの視点を持ち、行動問題の本質や背景を探してほしい。

## 2 受講者の感想

アセスメントとWISC-IIIについて、例を挙げながら詳しく説明していただきました。児童生徒の日頃の様子からだけでなく、WISC等のアセスメントを取り入れた客観的な資料を含めて、総合的な視点から実態把握を行い、適切な支援をしていかなければならないと感じました。



講座の概要を解説される落合氏



WISC-III についての解説

## 【講座2】 「指導方法や支援方法の組み立て」～行動面の課題に焦点をあてて～

【講師】 宮崎県立みやざき中央支援学校 教諭 秋吉 研吾 氏

### 1 講座の内容

#### ○問題行動とは

##### (1) 定義

- ① 行動自体の善悪 ≤ 周囲への影響。自分や他者の身体・健康上に著しい危険をもたらす行動。誰もが有意義と認める学習・労働・レジャーへの参加を妨げる等。
- ② 周囲が特性として受け入れている場合は問題行動とは言わない。周囲が受け入れられないレベルの行動であればそれがどんな動きであれ問題行動と言える。

##### (2) 内容『強度行動障害判定基準』～平成18年通達「厚生労働大臣が定めるもの」より～ 自傷、他害、激しいこだわり、器物破損、睡眠障害、著しい多動など。

##### (3) 原因

大切なのは多面的に子どもを見ることと正しい対応ができること。  
特性の理解不足・支援者の対応の誤り、行動の強化・習慣化による固定化など。

##### (4) 考えるべきこと

子どもたちは助けを待っている。そして対応方法はある。

#### ○対応

##### (1) SCERTS モデル

自閉症スペクトラム障害をもつ人たちのコミュニケーションや情動調整の能力を支援する方法の1つ。

☆ ここで「教師の心得チェックシート」で受講者が各自チェックを行い、日常の対応を振り返りました。

##### (2) 感覚統合療法

無意識の感覚(初期の感覚)を育てることに注目。ボディーイメージや身体的自己イメージが作られ健全な発達へつながる。

##### (3) TEACCH プログラムによる構造化

- ① 物理的構造化
- ② スケジュール
- ③ 個別課題学習
- ④ ワークシステム

##### (4) 応用行動分析学的アプローチ

ABC分析 A:先行事象 B:子どもの行動 C:結果事象

##### (5) パニックリフレクションモデル

軽度の発達障害、言語能力の高い児童生徒向け

原則1:強化の原理 子どもにとって良い結果 ⇒またその行動を繰り返す

原則2:消去の原理 子どもにとって良くも悪くもない結果 ⇒その行動は減少

原則3:罰の原理 子どもにとって悪い結果 ⇒その行動をしばらくしない

例)ソーシャルストーリー、コミック会話、振り返りシート

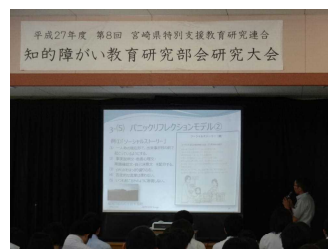
##### (6) 記録に基づく対応方法

問題行動となる行動の対応のあり方を客観的に分析・評価・修正

「行動観察シート」「スキャタープロット」「機能アセスメント観察表」

### 2 受講者の感想

問題行動を寛容させていけるのは教師や保護者などの支援者であるという一貫したスタンスで、対応の方法について分かりやすく説明されました。それぞれの学校環境や資源で、早速、実践していられることと思いました。



随所で聴講者の集中が続くような工夫を挟んでの講座でした

## 開会式及び教材・作品ひろばの様子

### 【 開会式 】



大勢の参加がありました



会長の挨拶

### 【 教材・作品ひろば 】



展示された作品に見入る姿や、教材の活用のしかた等について熱心に話す姿がありました

### 【 講座3-① 】

### 「感覚統合法」～その理論と実践～

#### 【 講師 】

作業療法士 長友 優紀 氏

#### 1 講座の内容

作業療法士 = OT

園や学校での困り感

- ・トラブルが多い。けんかになる。
- ・集中力がない。ぼんやりしている。
- ・立ち歩く。整理整頓ができない。

OT の視点

- ・粗大な動き
- ・応用的な動き(スキップ・縄跳び)
- ・微細な動き(手先・目の動き)
- ・感覚知覚能力
- ・心理社会的能力
- ・コミュニケーション能力



手作りの支援グッズを解説される長友氏

#### ○感覚統合療法とは「脳が感覚刺激をうまく使える形で組織化すること」

① 刺激を受ける(入力) ② 情報処理 ③ 行動する(出力)がスムーズにいかなければ問題が起こる。

例:バケツにつまづかないようにする。つまづかない子どもは、うまく情報を整理できる。

目からの情報があまり無く、聴覚からの情報が過大に入ってくる。(バケツの音・周囲の音)

- ・感覚刺激は、前庭覚・固有受容覚・触覚・視覚があり、その感覚を積み上げていくために、子どもの内発的欲求を大切にす。

#### 感覚刺激の反応性の問題

- ・ 過反応(過敏) JSIR …感覚についての検査(ホームページがある。)
  - ・ 低反応(気づきにくさ)
  - ・ 探求(気づきにくさから過剰に求める。)
- どこが苦手か知っておく必要がある。

#### 感覚の種類

\* 前庭感覚…揺れ・スピード・回転を感じる感覚

主な役割…頭の位置やその動きを感じ取り、姿勢バランスを保つ。

→自分の体が空間の中でどこにいるのかを感じ取り、他の感覚が動く基礎を作る。(例)赤ちゃんが名前を呼んだらその方向を見る。

- ① 姿勢・バランスを保つ
- ② 眼球運動



受講者同士での感覚統合の体験

- ③ 安心感と楽しさの感情を生み出す
- ④ 覚醒と鎮静→激しい動きが覚醒  
遊び:ブランコ・流れるプール

問題があると・・・

- ① 姿勢が崩れる
- ② 姿勢、重力不安(高いところが苦手・慣れない姿勢が苦手)
- ③ じっとしてられない・多動(感覚探求・覚醒)
- ④ タイミングがつかめない(横断歩道の無い道路が渡れない。)
- ⑤ 眼球運動の未発達(ドッジボールなどの運動が苦手・文字を読み飛ばす。)
- ⑥ 板書ができない。



様々な支援グッズ  
講座後受講者の方々が  
手にとって体験されていました

\* 固有感覚…筋肉や関節の動きを感じる

主な役割

- ① 力加減の調整(ペットボトルを持つ時と紙コップを持つ時の力加減)
- ② 手先や運動の器用さ(見なくてもボタンを留められる。)
- ③ 身体図式(身体の位置と手足の位置の関係どれくらい伸ばしたら届くか分かる)
- ④ 覚醒の調整(ストレス発散)

- ・ 固有感覚を促す物や遊び～チェンブランケット(チェーンの入ったタオル)・腕相撲・雲梯・手押し車・綱引き

問題があると・・・

- ① 動き回る
- ② 物の扱いが荒い。
- ③ 乱暴(「ねえ、ねえ」としただけなのに、ものすごく強い力で叩いてしまう。)
- ④ 不器用(料理や生き物の世話をするといい。)->白玉団子作り

\* 触覚…触ったり触られたりする感覚

主な役割…覚醒の調整→触り方(とんとん・なでなで)・人との情緒的交流

触覚的外界探索・口の周囲の感覚は生命維持に大切(安心感)

- ☆ 触覚を促す遊び～砂遊び・プール・組み体操・じゃんけん列車・のり・泥団子  
自分自身の身体イメージや運動の器用さに関与する危険から身を守る。

《触覚過敏》があると・・・

- ① 人に触られるのを嫌がり、スキンシップができないため愛着形成がしにくく、適応力の発達を阻害してしまう。
- ② 散髪や耳掃除、歯磨き、爪切りなどを嫌がる。
- ③ 身につけるものにこだわる。(好きな素材の物しか着ない。)
- ④ 触ることができる素材が偏る。(苦手な物がある。好きな素材は触り続ける。)
- ⑤ 退屈や緊張状態になると爪かみや鉛筆かじりなどの自己刺激を入れやすくなる。

原始反射の影響→ずっと残っている子どもがいる。

(例)顔を向けた方と逆の手が曲がる。うつぶせにすると足が曲がる。

ケース1:年長男児

- ・ すぐに「疲れた」と言って、怠けているように見える。
- ・ トランポリンを跳びたがらない。飛んでも跳び続けられない。
- ・ 座っていてもすぐに姿勢が崩れたり、うろろうする。
- ・ 文字が書けない。×がクロスしない。
- ・ 左右の見比べが苦手。
- ・ 鉛筆をうまく握れない。
- ・ ベタベタのスライムや小麦粉粘土が苦手
- ・ 見ないで触った物を識別するのが苦手
- ・ 袋に手を入れるような手が見えなくなる活動が怖い。
- ・ 褒められると照れるが調子に乗る。

学校生活でできること

- ・ 見通しをつける。  
→～分になったらプリントを持ってきて。
- ・ 感覚欲求を満たす。  
→握るボール・バランスクッション・屈伸・音読・机を動かす
- ・ 斜面台や席の位置などで板書のアシスト
- ・ 伝言ゲームで注意を促す
- ・ 触覚刺激の少ない席
- ・ 短く具体的な指示

どの感覚を求めている、どの感覚が苦手なのか、認められる形で取り入れる。

(参考文献:富山県作業療法士のホームページ)

2 受講者の感想

児童の感覚の困り感について実際に体験をすることで児童理解ができました。具体的な支援グッズを紹介して頂き参考になりました。今後の支援に生かしていきたいと思いました。

【講座3-②】 「適切な指導法や必要な支援方法を行いましょう」  
～応用行動分析の理論と実践～

【講師】 宮崎大学 教授 戸ヶ崎 泰子 氏

1 講座の内容

- 行動理論とは？（「オペラント条件づけ理論」について）
  - 古典的条件づけ
    - 条件反射の実験によって、ある反応が新しい刺激と結びつく学習過程（パブロフ）
  - オペラント条件づけ
    - 自発的な行動の出現確率は、その行動に強化刺激（強化子）が随伴することで増大するという学習過程（スキナー）
  - 強化子
    - ある行動（オペラント行動）に伴う結果のうち、その後、その直前の行動の生起頻度を増加させるような機能をもった刺激。強化子には行動を維持させる機能もある。働きかけの機能を見ることが重要。
- 行動理論から「行動問題」を理解する。
  - 同じ行動であっても、弁別刺激や行動の結果は異なる可能性がある。
  - その行動がどのように機能しているかをアセスメントすることが大切である。
  - A-B-C分析に基づき行動問題の生起プロセスを理解する。
- 事例で理解する「応用行動分析」
  - 行動問題の変容、適切行動の獲得。
  - 不適切行動は、無視（消去）し、適切行動が出現したときに、それを励まし認める（強化随伴）。さらに、適切行動が出現しやすいように課題を工夫する（環境調整）。家庭での般化を目指した着替えスキルの指導。



講師の戸ヶ崎氏



具体的な指導例を示されて

2 受講者の感想

課題分析が大切である事。構成されている行動を分解することで、つまづきが把握でき、適切なスモールステップを設定し、子どもに過度な負担をかけることなく効果的な指導・支援を行うことができることが解りました。